



サフラン便り

第24号 18年12月15日発行

発行:佐賀県女性薬剤師会
佐賀市本庄町大字本庄 1269-1
TEL:0952-23-8931
FAX:0952-23-8941
<http://www8.ocn.ne.jp/saffron/>

FAPA (アジア薬剤師会連合学術大会) 報告

*ポスター発表「佐賀県女性薬剤師会ウェブサイトの有効活用」

参加者 宮地和子、北島悦子、田中須磨代、真子美佐子、徳淵昭代(報告者)

九州は日本の中でアジアに最も近く、日本薬剤師学術大会が福岡であった時、アジア各国の情報を得る機会があり、東アジアの薬剤師社会の国際意識は高いと思いました。その中で、日本女性薬剤師が抱えている問題をアジア全体で解決へ向けて情報交換することは有効であると思われます。そこで佐賀県女性薬剤師会は従来活動してきたホームページのEnglish版を独立させ、意見交換ボードもわかりやすく作成しました。サフラン便りも7シリーズを英訳して配布しました。

(参加して得た事)

歓迎パーティでマレーシアの薬剤師会長のChang氏から、教育機関について話をきくことができました。薬学生教育は4年ですが後半の2年間は国内の教育施設が充実していないためスコットランドの薬学部に行く学生が多いとのこと。この先生は、のちに行われたフィリピンの大学教授のPharm.Dコースを制定したというレクチャについて、「アジアで統一する必要があるのではないか。」と提案されました。21日の最終日フィリピンの3名の先生と2次会に行ったときにそのことについて尋ねてみると、まだPharm.Dは特殊な例で、アジアで統一するには各国の事情があるので難しいという返事でした。将来は、アジア全域で統一して薬剤師免許が通用し、各国の薬剤師需要と供給が満たされることを望みます。

シンガポール薬剤師会長のCheng Tiang氏は、女性が育児家事の負担が大きいことはどこの国でもいえることで、WebSiteを利用した情報交換はいいことではないかといわれました。シンガポールでは思ったほど分業が進んでなく、薬局薬剤師に関する絵本を作成し、子供たちにおくすりは薬局でもらいましょうということをPRしてるということで、その絵本を買ってきました。しかも在宅に関してはまだ保険の適用がなく、費用の負担がかかるのでいまのところはまだ歓迎されないということでした。医学はすすんでおり毎年20万人ほどの患者が海外から治療や手術を受けに来るということです。

また韓国のChungさんはインターネットを通じて正しいサプリメント摂取の情報を提供するというタイトルで患者パラメーターを独自の数式に入力し結果も出ておりすばらしい内容でした。SWPAのHPにも興味をもたれ、またサフラン便りを見て、活動していることに関心を持たれました。今回はいろんなアジアの国々の状況を知ることができ、日本は指導的立場であると感じるとともに、他の国から学ぶ点も多く有意義な参加となりました。SWPA(佐賀県女性薬剤師会)のことは少しなりとも広報できたと思います。次回は2年後のシンガポールで開催されます。皆様ぜひ参加してみてください。



FAPA in 横浜に参加して思うこと

鳥栖三養基薬剤師会 会営薬局

真子 美佐子

アジアの各国から多くの薬剤師が一同に会し、期間中それぞれの発表を通じて互いに各国の薬剤師の現状や問題点を認識し意見交換しました。同時通訳は開会式やシンポジウムのみで、それ以外はすべて英語でディスカッションが行われました。

薬学教育の現状と課題のシンポジウムでは、アメリカの薬学教育を規範にして6年教育になったばかりの日本の教育システムや2009年に6年教育を目指す韓国、4年教育のシンガポールの問題など、各国の事情が紹介されましたが、これからの日本の教育の動向に注目が集まっていたように思います。アジアの各国は日本の薬学教育6年の行方を、自国の将来の重要な問題として見ているように強く感じました。

分科会では主にCommunity Pharmacy Sectionに参加して各国の薬剤師の活動ぶりを肌で感じました。印象的だったのが、鳥根県で増加する外国人に対してコミュニケーションの言語に何を使っているかなどの状況を調査した報告で、自分たちの問題として興味深く聞きました。また岩手県の「おはさま」町でどういった人がサプリメントをどれくらい取っているかの調査も色々細かく分析されていました。それから、タイの女性の薬剤師の方でしたが、タイの男性のアルコール摂取状況を調査した結果についてハザード比やP値などの数値をあげて、分析しその評価をされていたが、開局の薬剤師でもこれだけの統計処理をして解析する能力も要求される時代になっているのでしょうか。薬剤師の職能についての自分なりの意見や信念を持つことが必要だと感じました。日常の業務について流されがちになっている私にとって、今回の大会は日本の外から日本の薬剤師のあり方を見つめなおすとてもいい機会でした。もしチャンスがあれば、再度参加したいと思います。

<日本女性薬剤師会男女共同参画事業推進講演会報告>

場所：パシフィコ横浜会議センター 日時：平成18年11月20日(月)13時50分～

演題1：男女共同参画社会の実現をめざして 内閣府男女共同参画局総務課長 長谷川伸一先生

男性も女性も共に個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現は21世紀の我が国社会を決定する重要課題です。「夫が外、妻は家庭」という意見について、日本の男性は賛成の比率が高いが諸外国においては反対の比率が多い。日本の男性が家事育児介護に充てる時間は約30分程度で、しかも共働き世帯と専業主婦世帯ではほとんど差がない。諸外国と比較しても極めて短い。そこで、政府は指導的地位に占める女性の割合を少なくとも30%になるように各分野の取り組みの推進を図り、女性の参画の拡大に関する協力を要請した。

演題2：チャングム人気と女性の国際的職業人 城西国際大学学長 水田宗子先生

なぜ、今男女共同参画社会が必要とされるのか？高齢化社会の到来・少子化による人口減少・国際競争の激化等により「仕事か家庭か」から「仕事も家庭も」の意識の変化が望まれる。16世紀に歴史上初めて皇帝の主治医となるチャングムの背景には、適材適所を見抜く施政者と女性を職業人として支える夫の存在が大きい。

DV被害をもつ女性とお話する機会を与えられました。

被害を受けた苦しみよりも、自立に向けての活動に対する差別偏見の実情に驚き、落胆しました。それでも様々な価値観の板ばさみの葛藤の中から、自分にとって大切なものを選びとり、努力精進する姿に胸があつくなりました。社会の中で自立し生き抜くには、無駄なことにエネルギーを使わぬ知恵も必要なことのようにです。先輩の女性にも見習う方々が沢山います。いい知恵をいただけるかもしれません。幸せを祈ります。よいお年

を…(島田)



<これだけは見逃せない小児疾患> 日本女性薬剤師会 全国研修会テキスト 資料編より 抜粋

- ・ **消化管異物**：頻度の高い小児救急疾患のひとつ。特に1歳前後に集中する。硬貨、玩具、ボタン電池が代表的異物で、ボタン電池は電流の直接障害・電気分解によるアルカリによる障害・電池内容の流出物質による障害が問題。リチウム電池は電圧が高く特に危険。金属やプラスチック異物などは自然に排泄されるという。食道内異物は、6時間の異物停滞で半数に粘膜損傷が見られる。胃内異物で3週間以上停滞時は注意、腸内異物でボタン電池等8時間以上1ヶ所に停滞すると危険が生じる。
- ・ **夜尿症**：夜間睡眠中の尿量と機能的膀胱容量とのアンバランスによって起きる。睡眠中の尿意の自覚や排尿抑制は4歳頃より可能となり、夜間の抗利尿ホルモン(ADH)分泌も増加するが、夜間に機能的膀胱容量を上回る尿量がみられると夜尿が起こる。
- ・ **小児のヒステリー**：無意識の精神的葛藤が身体症状を引き起こし、その症状発現により精神的葛藤を解決している状態。頭痛、腹痛、過呼吸、視力障害、けいれん、麻痺などの運動、感覚、自律神経の身体症状を示す転換型と、もうろう状態などの精神症状を示す解離型がある。小児では転換型が多く、症状の現れ方は多様で症状の繰り返しや症状が変化することも多いという。前頭葉性自覚症、多発性硬化症、脳腫瘍、軽度発達障害(注意欠陥、多動障害、高機能自閉症、アスペルガー障害、学習障害、境界知能など)家族歴、虐待などの鑑別が必要。

<平成18年度 民間グループ調査研究中間報告>

テーマ：女性薬剤師のさらなるチャレンジに向けて！～女性薬剤師の50年を検証する～

アバンセにて10日(日)に報告会がありました。皆様のご協力で何とか中間報告ができました。「女性薬剤師たちが薬剤師という職業をどのようなことで選択し、どのような状況で働き、今後どう生きていこうと考えているかをアンケート調査することで明らかにし、同時に女性薬剤師を直接インタビューすることによってここ50年間の薬剤師の姿を見つめることにより、薬剤師会女性薬部会として薬剤師にだけでなく、県内の女性たちに対してどのような活動ができ、政策提言ができるかを検証するためにこの調査を行った。」(報告書 抜粋)

平成19年度 日本女性薬剤師会研修講座 診療ガイドライン薬剤コース 受講者募集

今回の募集で4回目になりました。のべ207人の方が受講されています。現場ですぐに役立つ、どこでも開けるコンパクトなテキストです。いつでも、どこでも、誰でもできる通信講座です。是非来年度も受講よろしく願います。お問い合わせは県薬事務局まで

(教育カリキュラム)

平成19年 糖尿病(4月) 高血圧(5月) 頭痛(6月) 真菌症(7月) 急性膵炎(8月) 結核(10月)
乳癌(11月) アルコール薬物依存症(12月) 平成20年 腰痛症(1月) 高脂血症(2月)

新しいガイドラインに対応していますし、解剖学も入ってきています。乞うご期待!!